

# 中等教育における教科書の漢詩教材の傾向と特徴

—女性詩人の作品の可能性を考える—

岩田久美加

## 一 はじめに

日本においては、『古今和歌集』という勅撰和歌集が成立する以前に、『凌雲集』『文華秀麗集』『経国集』という勅撰漢詩集がまとめられた。また、古くから漢文訓読という方法を編み出し、それによって漢文で書かれたものの内容を理解してきた。そのため『万葉集』や『古今和歌集』といった「やまとことば」のうたの中にも漢詩や漢籍の影響はみることができる。従って、漢詩は日本文学の一部を形成していると言えよう。

そのような漢詩について、授業報告や教材開発についての研究は数多くあるが、教科書教材の掲載状況の分析についてはあまりみることはない<sup>i</sup>。新しい学習指導要領<sup>ii</sup>に基づいた教科書が、中学校では令和三年度から使用がはじまり、高等学校では令和四年度から使用開始の「言語文化」の検定済み教科書が公開された現在、新しい指導要領に基づいた教科書の漢詩教材の実態を、散文中の漢詩やコラムなどに載るものまで調査し、作品とその漢詩人に注目してその傾向や特徴を明らかにした上で、現状の問題点や新たな漢詩教材の可能性について考えたい。なお、調査の結果は最後に表を一括して掲載した。但し、紙幅の関係から「古典 A」に関しては、「国語総合」「古典 B」と教材が一教材を除き重複するため今回は割愛し、「古典 B」に関しては、132種の漢詩が採録されているが、日本漢詩についてのみ載せた。また、調査対象の教科書<sup>iii</sup>は種別と出版社の略称と番号で記し、コラムや参考として扱われている漢詩については斜体で記した。

## 二 中学校の国語の教科書と高等学校の「言語文化」の教科書について

まず、中学校の国語の教科書は、[表1] に掲げたように、四社全てが李白「黄鹤楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」と孟浩然「春暁」を採用しており、定番教材と言えよう。その中にあるのは、教出が良寛「翠岑を下る」という江戸時代の日本漢詩を参考とはいえ採用しているのは目にひく。

次に、高等学校の「言語文化」の教科書は、九社十七種類の検定教科書が令和四年に刊行<sup>iv</sup>されるが、漢詩教材は四十九首ある。そのうち中国漢詩は三十四首で、時代的には盛唐二十二首・中唐八首、晩唐三首・清一首であり、半数以上が盛唐の時代の詩である。日本漢詩は十五首で、時代的には平安三首（菅原道真「謫居春雪」同「読家書」同「不出門」）・江戸四首（石川丈山「富士山」・菅茶山「冬夜読書」同「螢」・広瀬淡窓「桂林荘雑詠示諸生」）・明治六首（中野逍遥「道情」・夏目漱石「春日偶成」同「無題」同「青春二三月」<sup>v</sup>・成島柳北「鳥児塞宮」・幸田露伴「春暁」）・大正一首（夏目漱石「題自画」）・昭和一首（河上肇「京洛の新緑美無加散歩途上口占」）である。これは、現行の指導要領に基づいた「国語総合」の教科書においては[表3]にあるように、漢詩教材三十四首中日本漢詩は、広瀬淡窓「桂林荘雑詠示諸生」と夏目漱石「題自画」の二首しか採用されていないのとは大きな違いである。これは、新学習指導要領において、「国語総合」の中の古典分野を「言語文化」として独立した科目とし、「3 内容の取扱い」の中の(4)アに「内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の〔B 読むこと〕の教材は、古典及び近代以降の文章とし、日本漢文、近代以降の文語文や漢詩文などを含める」と記されているのを受けていると考えられる。なお、[表4]にあるように、「言語文化」に採用された日本漢詩は、菅原道真「読家書」同「不出門」、石川丈山「富士山」、菅茶山「冬夜読書」、広瀬淡窓「桂林荘雑詠示諸生」、夏目漱石「題自画」が現行の学習指導要領に基づいた「古典B」の教科書に採用されている。このことについて、渡邊

寛吾<sup>vi</sup>が広瀬淡窓「桂林莊雜詠示諸生」と菅茶山「冬夜讀書」を取り上げ論じているように、教材の内容自体は難解なものではなく、高校一年生への「日本漢文」への導入として「言語文化」の教科書に載せて理解は可能だとしながらも、掲載作品の年代が江戸時代中心であることに検討の余地があると指摘するのは首肯すべきである。

次に〔表2〕より半数以上である五社以上が採用する漢詩を挙げる。

八社十三種…王維「送元二使安西」

七社十種…孟浩然「春暁」

七社八種…柳宗元「江雪」

六社十一種…李白「静夜思」

六社九種…杜甫「春望」

六社八種…王翰「涼州詞」

五社八首…白居易「八月十五日夜禁中独直对月憶元九」

五社六首…白居易「香炉峰下新卜山居草堂初成偶題東壁」・杜牧「江雪」

これらは、全て近代詩で、〔表3〕「国語総合」や〔表4〕「古典B」においても採用されており、いわゆる定番教材と言って良いだろう。この中で、白居易「香炉峰下新卜山居草堂初成偶題東壁」は『枕草子』との複合教材としての側面をもって採用されたものであろう。なお、孟浩然「春暁」は先にみたように、すべての中学校の教科書で採用されており、杜甫「春望」も四社中三社が採用しているが、堀誠<sup>vii</sup>が指摘するように、校種間の展開を意識した学びの獲得に留意すべきである。

### 三 詩人のかたよりについて

これまで、新学習指導要領に基づく中学校の国語の教科書と「言語文化」の教科書に採用された作品は、定番教材を採用するという傾向があり、日本漢詩については現行学習指導要領に基づく「古典B」採録の漢詩が「言語文化」にも多く含まれる特徴を確認し、その問題点も確認した。

ここでは、高等学校の教科書に採用された詩人の傾向を確認する。[表2]より「言語文化」の教科書に採用された詩人ごとの採録詩数をあげると次のようになる。

九首…李白（盛唐）

七首…杜甫（盛唐）

四首…夏目漱石（明治）<sup>viii</sup>

三首…菅原道真（平安）

二首…王維（盛唐） 孟浩然（盛唐） 白居易（中唐） 杜牧（晚唐） 菅茶山（江戸）

一首…王翰（盛唐） 王之涣（盛唐） 韋応物（中唐） 賈島（中唐） 元稹（中唐） 張継（中唐） 劉禹錫（中唐） 柳宗元（中唐） 于武陵（晚唐） 朱彝尊（清） 石川丈山（江戸） 広瀬淡窓（江戸） 中野逍遙（明治） 成島柳北（明治） 幸田露伴（明治） 河上肇（昭和）

中国古典詩史では、盛唐がピークであり、その中でもとりわけ李白と杜甫が高く評価されていたために、李白と杜甫の作品が多く採用されているとの指摘<sup>ix</sup>通りである。また、前章で指摘した通り、日本漢詩人の作品が[表3]の「国語総合」に比べて多いため、これまでの杜甫と李白を中心とした盛唐の詩人だけではなく、様々な詩人の作品が採録されていることが指摘できる。

ところで、新学習指導要領の解説では「『日本漢文とは、上代以降、近世に至るまでの間に日本人がつくった漢詩と漢文』であるとし、「我が国の文化において漢文が大きな役割を果たしてきたことや、日本人の思想や感情などが漢語、漢文を通して表現される場合も少なくなかったこと」への学習者の理解を深めることを示唆している。つまり、様々な感情を漢詩文で表現してきたことを理解することが学習の目的のひとつだということである。しかし、これまで見てきたように、新学習指導要領に基づき編纂された中学校の国語や「言語文化」の教科書所載漢詩の作者は、全て男性であり、女性漢詩人の作品は採用されていない。このような状況からは、「女性の考えは漢詩文では表現できない」との印象を与えるものではないだろうか。確かに、中国文学の担い手が貴族や

士大夫層であり、儒教規範に基づき、支配者階級の女性が作品を公にする場がなく、妓女や女道士を除いては女性詩人の存在は、辛亥革命までほとんど認識されてこなかったという野村鮎子<sup>x</sup>の指摘は的をえている<sup>xi</sup>。しかし、日本においては、既に平安時代の勅撰漢詩集である『経国集』には嵯峨天皇皇女の宇智子内親王の詩八首が、同じく勅撰漢詩集の『凌雲集』には姫大伴氏の漢詩が一首採録されている。このように日本においては、古代から女性詩人が存在したのである。また江戸時代においては、一首以上の詩作を確認しうる女性詩人は七十四名<sup>xii</sup>も存在し、江戸後期には質量ともに、女性詩人の活躍はピークを迎え、十八世紀半ば以降、徐々に一般の詩集や詩話に当代女性の詩作が採録され、幕末から明治にかけて女性詩のみの撰集がいくつも刊行された<sup>xiii</sup>。このような女性詩人の出現は、詩人層の広がりとともに享受者層の広がりをも意味しており、それにともない新たな漢詩の表現内容—たとえば女性による女性の感情の表現など—も広がっていったと考えられ、文学史的にも注目すべきことである。さらに男性が遠く離れた地の人々と交流する—たとえば、宣長と真淵の書簡のやり取り—のと同じように、当時の女性詩人も、様々な人々との交流も持ちながら作詩を行っており、そのような知的なネットワークが男女を問わず存在したという文化的背景があったことは知られるべきことであろう。なお、「古典B」においては、参考として北宋の女性詩人である李清照の「烏江」が『新精選古典B 漢文編』（明治書院）に採録されているが、日本の女性詩人の詩も教科書に採用することで、女性詩人の存在を知らしめ、江戸時代における漢詩に関する文学史的な事柄や文化的背景も学習者に示すことができよう。

#### 四 女性詩人の詩について

それでは、具体的にどのような詩が良いだろうか。女性詩人の詩で教材に適当なものはいくつかあるが、本稿では、頼山陽の門人であり、江戸時代の三大女流詩人の一人でもあり、墨竹画家としても有名な詩画兼ね備えた、司馬細香の作品の可能性を考えてみたい。

唐崎松下拜別山陽先生<sup>xiv</sup> 唐崎の松下に、山陽先生に拜別す

儂立岸上君在船	儂は岸上に立ち君は船に在り
船岸相望別愁牽	船岸相望みて別愁牽く
人影漸入湖煙小	人影漸く湖煙に入りて小さく
罵殺帆腹飽風便	罵殺す、帆腹風便に飽くも
躊躇松下去不得	松下に躊躇して去ることを得ず
万頃碧波空渺然	万頃の碧波空しく渺然たり
二十年中七度別	二十年中七度別る
未有此別尤難説	未だ此の別れの尤も説き難き有らず

琵琶湖畔で山陽先生と別れ、自分は岸辺に立ち、山陽先生は船上にあり、向かい合って眺めているが、追い風により船が早く岸から遠ざかり、先生が見えなくなってしまうと怒り立ち去ることもできず、この度の別れのように言葉にできない別れはない、とのべている古体詩である。なお、天保元年（1830）3月、細香四十四才の時の作品である。

この詩を提案する理由は、以下のとおりである。第一には、具体的に「唐崎」「山陽先生」と固有名詞が題に入っており、更に第一句にも、「儂」が「岸上」に、「君」が「船中」に配置され、場所と人物とその二人の現在の位置関係が具体的に判明しており、学習者にも状況が理解しやすい。第二には、ここでは女性の弟子である細香と男性の師匠の山陽の別れが描かれているが、教科書に採録されている漢詩には、男同士の友人との別れを描いた作品—たとえば、定番教材である王維「送元二使安西」<sup>xv</sup>—などがあり、どちらも「別れ」という点では共通しており、作品の表現内容などを比較しやすい。第三に、「唐崎」は有名な名所であり、「唐崎」をよみ込んだ和歌—柿本人麻呂「楽浪の志賀の唐崎幸くあれど大宮人の舟待ちかねつ」『万葉集』（①三〇）など—や、俳諧—芭蕉「唐崎の松は花より臙にて」『野ざらし紀行』など—、また浮世絵—歌川広重「近江八景之内唐崎夜雨」など—と関連させて「唐崎」という名所を用いた表現やその担っている意味や情趣を考えることができる。第四に、この詩に登場する山陽は、教科書に漢詩や定番教材である『日本外交史』などが採用されている

が、その山陽批点<sup>xvi</sup>も併せて掲採するならば、指導前と後の漢詩の比較や、江戸時代の作詩における具体的な指導について知ることができる。さらに、京都の山陽と美濃国大垣を中心に活動する細香の交流から、当時の文化的中心地と地方における文化交流の具体的な様相や、そこから発生する知的な人的ネットワークを学習者は実感することができよう。

以上のように、この細香の詩は、内容が理解しやすく、和歌など他の教材との比較を行うことができ、関連した人物を通して当時の時代背景を知ることができる教材である。これらは、新学習指導要領の解説の「3 内容」の中の「B 読むこと」の「作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。」に該当しよう。

## 五 まとめにかえて

以上、新学習指導要領に基づく中学の国語の教科書と「言語文化」の教科書を中心に漢詩教材の現状を調査し、その傾向と特徴を考察してきた。そこから、これらの教科書は、李白・杜甫を中心とした盛唐の詩人の作品が採用され、定番教材となっているものも多いが、それ以外に日本漢詩など現行の学習指導要領に基づく「国語総合」などに比べれば多彩な作品を採録しているという特徴がある。また、「言語文化」では「日本漢詩文」の必須化により日本漢詩の採用数が増えることに伴い採録詩人の数も増え、採録詩の時代的分布は広がったが、どちらも男性詩人の作品のみの採録であった。しかし、江戸後期には多くの女性詩人が出現し、漢詩人層と享受者層も広がり、漢詩の表現内容も変化するというのは文学史的に重要なことであり、さらに文化的中央と地方の人的交流による知的なネットワークが存在するなかでの作詩活動という文化的な背景は注目すべきである。その二つを学習者が理解するためにも、女性詩人の作品も採用すべきであり、本稿では、江馬細香の詩を例に挙げて提案も行い、その有用性を示した。

今まで、清少納言や紫式部の例があるように、日本においては、女性は漢籍

に関する知識は有しても、実際に漢詩や漢文を女性が制作することを教科書の教材では示してこなかったと思われる。そのため、漢詩は男性がつくるものと、学習者は思いがちである。しかし、そろそろ日本の女性詩人の漢詩の教科書への採用を行うべきではなからうか。それにより、漢詩というものが、男性だけの閉じた文学ではなく、江戸時代においては、和歌などと同じく、男女ともに人的な交流をはかりつつ制作された広がりをもつ文芸であることを認識し、学習者が漢詩がより身近なものと感じ、理解が深まる可能性があるのではないかと考えている。

<sup>i</sup> 宮崎洋一「中学校・高等学校の国語教科書に掲載された漢文の教材一覧」『文教国文学』56（広島文教女子大学）2012年2月、「中学校・高等学校の国語の教科書に掲載された漢文の教材一覧（その2）」『文教国文学』59（広島文教女子大学）2015年2月、「中学校・高等学校の国語の教科書に掲載された漢文の教材一覧（その2-2）」『文教国文学』63（広島文教女子大学）2019年2月がある。但し、コラムや散文中の漢詩は省略されている。中川論「高等学校「古典・漢文」教材としての中国古典詩の活用」『教職課程センター紀要』2（大東文化大学教職課程センター）2017年12月は、高校のみを対象とし、古典Bに関しては三冊しか調査していない。渡邊寛吾「教科書から見る高等学校での「日本漢文」の扱いについて—次期学習指導要領に向けての予備調査として—」『愛知教育大学附属高等学校研究紀要』47（愛知教育大学附属高等学校）2020年3月は古典Bの日本漢文のみを対象とする。

<sup>ii</sup> 中学校は、平成29年公示で令和3年度から実施、高校は平成30年公示で令和4年度より実施の学習指導要領をさし、本稿では以下新学習指導要領とする。

<sup>iii</sup> 調査対象教科書と略号は以下の通り。

#### 【中学校】

調査対象は、『新しい国語』1~3（東京書籍）、『現代の国語』1~3（三省堂）、『伝え合う言葉 中学国語』1~3（教育出版）、『国語』1~3（光村図書）であるが表にある略称だけをここに記す。東書801…『新しい国語』2（東京書籍）、三省堂802…『現代の国語』2（三省堂）、教出903…『伝え合う言葉 中学国語』3（教育出版）、光村804…『国語』3（光村図書）

#### 【高等学校】

〈「言語文化」〉東書701…『新編言語文化』（東京書籍）、東書702…『精選言語文化』（東京書籍）、703三省堂…『精選 言語文化』（三省堂）、704三省堂…『新 言語文化』（三省堂）、705大修館…『言語文化』（大修館）、706大修館…『新編 言語文化』（大修館）、707数研『言語文化』（数研出版）、708数研…『高等学校 言語文化』（数研出版）、709数研…『新編 言

語文化』(数研出版)、710 文英堂…『言語文化』(文英堂)、711 明治…『精選 言語文化』(明治書院)、712 筑摩…『言語文化』(筑摩書房)、713 第一…『高等学校 言語文化』(第一学習社)、714 第一…『高等学校 精選言語文化』(第一学習社)、715 第一…『高等学校 標準言語文化』(第一学習社)、716 第一…『高等学校 新編言語文化』(第一学習社)、717 桐原…『探求 言語文化』(桐原書店)

〈「国語総合」〉

東書 332…『新編国語総合』(東京書籍)、東書 333…『精選国語総合』(東京書籍)、東書 335…『国語総合 古典編』(東京書籍)、三省堂 337…『高等学校国語総合 古典編 改訂版』(三省堂)、三省堂 338…『精選国語総合 改訂版』(三省堂)、三省堂 339…『明解国語総合 改訂版』(三省堂)、教出 341…『精選国語総合 古典編』(教育出版)、教出 342…『国語総合』(教育出版)、教出 343…『新編国語総合』(教育出版)、大修館 345…『国語総合 改訂版 古典編』(大修館書店)、大修館 346…『精選国語総合 新訂版』(大修館書店)、大修館 347…『新編国語総合 改訂版』(大修館書店)、数研 349…『改訂版 国語総合 古典編』(数研出版)、数研 350…『改訂版 高等学校 国語総合』(数研出版)、数研 351…『新編 国語総合』(数研出版)、明治 353…『新 精選国語総合 古典編』(明治書院)、明治 354…『新 高等学校国語総合』(明治書院)、筑摩 356…『精選国語総合 古典編 改訂版』(筑摩書房)、明治 357…『国語総合 改訂版』(筑摩書房)、第一 359…『高等学校 改訂版 新訂国語総合 古典編』(第一学習社)、第一 360…『高等学校 改訂版 国語総合』(第一学習社)、第一 361…『高等学校 改訂版 標準国語総合』(第一学習社)、第一 362…『高等学校 改訂版 新編国語総合』(第一学習社)、桐原 364…『新 探求国語総合 古典編』(桐原書店)

〈「古典 B」〉

東書 329…『新編古典 B』(東京書籍)、東書 330…『精選古典 B 新版』(東京書籍)、東書 332…『精選古典 B 漢文編』(東京書籍)、三省堂 334…『高等学校古典 B 漢文編 改訂版』(三省堂)、三省堂 335…『精選古典 B 改訂版』(三省堂)、教出 337…『精選古典 B 漢文編』(教育出版)、教出 338…『古典 B』(教育出版)、教出 309…『新編 古典 B 言葉の世界へ』(教育出版)、大修館 340…『古典 B 改訂版 漢文編』(大修館)、大修館 341…『精選古典 B 改訂版』(大修館)、大修館 342…『新編古典 B 改訂版』(大修館)、数研 344…『改訂版 古典 B 漢文編』(数研出版)、文英堂 356…『古典 B』(文英堂)、明治 346…『新 精選古典 B 漢文編』(明治書院)、明治 347…『新 高等学校古典 B』(明治書院)、筑摩 349…『古典 B 漢文編 改訂版』(筑摩書房)、第一 351…『高等学校 改訂版 古典 B 漢文編』(第一学習社)、第一 352…『高等学校 改訂版 古典 B』(第一学習社)、第一 353…『高等学校 改訂版 標準古典 B』(第一学習社)、桐原 355…『新 探求古典 B 漢文編』(桐原書店)

<sup>iv</sup> 教科書図書館にて、令和 3 年 7 月より検定結果公開資料(文部科学省)として公開中のも

のを調査した。

<sup>v</sup> これは小説『草枕』の中にある漢詩である。

<sup>vi</sup> iの渡辺論文。

<sup>vii</sup> 『国語科唐詩教材と杜甫』『国語科教材の中の「中国」』（学文社）2021年

<sup>viii</sup> 作品により公表された時代が異なるが、ここでは多くの作品がある明治時代の詩人とした。

<sup>ix</sup> iの中川論文。

<sup>x</sup> 「漢文の教科書に女性詩人が登場しないのはなぜか」『漢文教室』207（大修館書店）2021年4月

<sup>xi</sup> 但し、揖斐高は、明や清の時代には多くの女性詩人が存在し、女性詩人の撰集が編まれており、それらは当時の日本に輸入され、また清の袁枚の「俗に女子は詩を為るに宜しからずと称するは、陋なる哉、その言や」（『隨園詩話補遺卷一』）とする女性観も存在し、これもまた十八世紀末の江戸の湖詩社を中心とする古文辞学に変わる新しい詩風を模索する人々に影響を与えていた、と「漢詩の隆盛」『江戸詩歌論』（汲古書院）1998年2月において指摘している。従って、<sup>x</sup>の野村の指摘は、当時の隆盛は広く知られておらず、辛亥革命時による再発見まで待たなければならなかったということ指摘していると考え。

<sup>xii</sup> 小林徹行『中国女性文獻研究分類目録附江戸以降女性詩人文獻目録』（汲古書院）2001年11月

<sup>xiii</sup> 黒川桃子「女性詩人の誕生」『アナホリッシュ國文学』3（響文社）2013年6月

<sup>xiv</sup> 本文は門玲子著・入谷仙介監修『江馬細香詩集『湘夢遺稿』』訂正版（汲古書院）1994年6月による。訓み下し文は、<sup>xiv</sup>と福島理子「閣秀詩人江馬細香」『語文』50号1988年3月を参考にした。

<sup>xv</sup> 細香にはこの王維の詩をふまえたとおぼしき「次韻藤井氏送別作」もある。

<sup>xvi</sup> 先に掲げた『江馬細香『湘夢遺稿』』訂正版の門玲子による注には、当該詩にも批点があり、特に第七、八句は、もともと「別恨極時幾度 途上賦賜送別篇」とあったが、「結末雖是実微覺不振、以其無情語爾、当言廿年来相逢相別未如此別之難別之意」との朱註が余白にあり、その指導に従い「二十年中七度別 未有如此別恨纏」と改作し、更に第八句は現行のように改めているとある。これは、『湘夢遺稿』にも『湘夢詩草』（細香自筆本）にもないので、門が細香自筆『湘夢詩稿』（『江馬文書目録』に「詩稿」「拙稿」「湘夢詩草稿」の名称で三十一點の記載）を見ての注と推測される。なお、小林徹之の「解題」（『山陽先生批点湘夢詩草』（汲古書院）平成九年七月）によると、『湘夢遺稿』や『湘夢詩草』の草稿にあたるもので、各詩稿は頼山陽をはじめとする文人の批正が直接朱筆で書き込まれている貴重なものであるという。

[表1] 令和3年度中学校国語使用教科書

時代	詩型	作者	題	種別	教科書
盛唐	七言絶句	李白	黄鹤楼にて孟浩然の 広陵に之くを送る	国語	東書 801、三省堂 802、教出 903、光村 804
盛唐	五言絶句	孟浩然	春晓	国語	東書 801、三省堂 802、教出 903、光村 804
盛唐	五言絶句	杜甫	絶句	国語	光村 804
盛唐	五言律詩	杜甫	春望	国語	東書 801、三省堂 802、教出 903
江戸	五言絶句	良寛	翠岑を下る	国語	教出 903

[表2] 令和4年度「言語と文化」使用教科書（令和3年度検定済み教科書）

時代	詩型	作者	題	種別	教科書
盛唐	五言絶句	王維	鹿柴	言文	東書 701、東書 702、筑摩 712
盛唐	七言絶句	王維	送元二使安西	言文	東書 702、三省堂 703、大修館 705、数研 707、数研 708、数研 709、文英堂 710、明治 711、第一 713、第一 714、第一 715、第一 716、桐原 717
盛唐	七言絶句	王翰	凉州詞	言文	東書 702、大修館 705、数研 707、数研 708、数研 709、明治 711、筑摩 712、桐原 717
盛唐	五言絶句	王之涣	登鸛鵲樓	言文	数研 707、数研 708、数研 709、筑摩 712、桐原 717
盛唐	五言律詩	杜甫	月夜	言文	三省堂 704、大修館 705、数研 707、数研 708、第一 713、第一 714
盛唐	五言律詩	杜甫	春日憶李白	言文	桐原 717
盛唐	五言律詩	杜甫	春望	言文	東書 702、三省堂 703、数研 709、文英堂 710、明治 711、第一 713、第一 714、第一 715、第一 716

盛唐	五言絕句	杜甫	絕句	言文	桐原 717
盛唐	五言律詩	杜甫	登岳陽樓	言文	文英堂 710、筑摩 712、筑摩 717
盛唐	七言律詩	杜甫	登高	言文	数研 707、数研 708
盛唐	古詩	杜甫	貧交行	言文	文英堂 710
盛唐	五言律詩	孟浩然	過故人莊	言文	大修館 705、筑摩 712
盛唐	五言絕句	孟浩然	春曉	言文	東書 701、東書 702、三省堂 703、大修館 705、数研 709、明治 711、筑摩 712、第一 714、第一 715、第一 716
盛唐	七言絕句	李白	黃鶴樓送孟浩然之廣陵	言文	東書 701、東書 702、第一 713、第一 714
盛唐	七言絕句	李白	山中問答	言文	数研 707、数研 708
盛唐	五言絕句	李白	秋浦歌	言文	数研 709
盛唐	五言絕句	李白	靜夜思	言文	三省堂 703、三省堂 704、大修館 705、数研 707、数研 708、文英堂 710、明治 711、第一 713、第一 714、第一 715、第一 716
盛唐	七言絕句	李白	贈汪倫	言文	東書 701、大修館 705
盛唐	七言絕句	李白	早發白帝城	言文	桐原 717
盛唐	五言律詩	李白	送友人	言文	桐原 717
盛唐	七言絕句	李白	望廬山瀑布	言文	筑摩 712
盛唐	五言律詩	李白	魯郡東石門送杜二甫	言文	桐原 717
中唐	五言絕句	韋處物	聞雁	言文	三省堂 703
中唐	七言絕句	賈島	聞蟬感懷	言文	三省堂 703

中唐	七言絕句	元稹	聞白樂天左降江州司馬	言文	桐原 717
中唐	七言絕句	張繼	楓橋夜泊	言文	桐原 717
中唐	七言律詩	白居易	香奩峰下新卜山居草堂初成偶題東壁	言文	東書 702、大修館 705、文英堂 710、筑摩 712、第一 715、第一 716
中唐	七言律詩	白居易	八月十五日夜禁中直對月憶元九	言文	三省堂 703、三省堂 704、數研 707、數研 708、明治 711、第一 713、第一 714、桐原 717
中唐	五言絕句	劉禹錫	秋風引	言文	明治 711、筑摩 712
中唐	五言絕句	柳宗元	江雪	言文	三省堂 703、大修館 705、數研 709、文英堂 710、明治 711、筑摩 712、第一 713、筑摩 714
晚唐	五言絕句	于武陵	勸酒	言文	明治 711
晚唐	七言絕句	杜牧	江南春	言文	三省堂 704、文英堂 710、明治 711、筑摩 712、第一 713、筑摩 714
晚唐	七言絕句	杜牧	山行	言文	大修館 705、數研 707、數研 708、數研 709
清	五言絕句	朱彝尊	霜降	言文	文英堂 710
平安	七言絕句	菅原道真	謫居春雪	言文	文英堂 710
平安	七言律詩	菅原道真	読家書	言文	第一 713、第一 714、第一 715、第一 716、桐原 717
平安	七言律詩	菅原道真	不出門	言文	數研 707
江戸	七言絕句	石川丈山	富士山	言文	數研 709、明治 711
江戸	七言絕句	菅茶山	冬夜読書	言文	三省堂 703
江戸	七言絕句	菅茶山	螢	言文	桐原 717
江戸	七言絕句	広瀬淡窓	桂林莊詠示諸生	言文	三省堂 703、第一 713、第一 714、第一 715、第一 716

明治	五言絶句	中野道遥	道情	言文	第一 713、第一 714、第一 715、第一 716
明治	五言絶句	夏日漱石	春日偶成	言文	東書 702、三省堂 704、数研 709
明治	五言絶句	夏日漱石	無題	言文	桐原 717
明治	五言絶句	夏日漱石	青春二三月【草枕】	言文	三省堂 703
明治	七言絶句	成島柳北	鳥兒塞宮	言文	明治 711
明治	五言絶句	幸田露伴	春晓	言文	東書 701、東書 702
大正	七言絶句	夏日漱石	題自画	言文	三省堂 703、文英堂 710
昭和	七言絶句	河上肇	京洛之新緑美無加散 歩途上口占	言文	数研 707

[表 3] 令和 3 年度「国語総合」使用教科書

時代	詩型	作者	題	種別	教科書
初唐	古詩	劉廷芝	悲白頭翁	国総	大修館 345
盛唐	七言絶句	王維	送元二使安西	国総	東書 333、東書 335、三省堂 337、三省堂 338、教出 341、 教出 342、教出 343、大修館 345、大修館 346、大修館 347、数研 349、数研 350、数研 351、明治 353、明治 354、 筑摩 356、筑摩 357、第一 359、第一 360、第一 361、第一 362、桐原 364
盛唐	七言絶句	王翰	涼州詞	国総	東書 333、東書 333、東書 335、三省堂 337、三省堂 338、 三省堂 339、教出 341、教出 342、教出 343、大修館 345、 大修館 347、数研 349、数研 350、数研 351、筑摩 356、桐 原 364

盛唐	五言絕句	王之渙	登鸛鵲樓	国総	東書 333、三省堂 337、教出 341、教出 342、教出 343、大修館 345、大修館 346、数研 349、数研 350、数研 351、桐原 364
盛唐	五言律詩	杜甫	月夜	国総	三省堂 339、数研 349、数研 350、第一 359、第一 360
盛唐	五言律詩	杜甫	春望	国総	東書 333、東書 335、三省堂 337、三省堂 338、教出 341、教出 342、教出 343、大修館 345、大修館 346、大修館 347、数研 351、明治 353、明治 354、筑摩 356、筑摩 357、第一 359、第一 360、第一 362
盛唐	五言絕句	杜甫	春夜喜雨	国総	東書 332
盛唐	五言絕句	杜甫	絕句	国総	大修館 345、大修館 346、筑摩 356、筑摩 357、桐原 364
盛唐	五言律詩	杜甫	登岳陽樓	国総	三省堂 338、桐原 364
盛唐	七言律詩	杜甫	登高	国総	三省堂 337、数研 349、数研 350
盛唐	五言律詩	杜甫	旅夜書懷	国総	教出 341
盛唐	五言絕句	孟浩然	春曉	国総	東書 332、東書 333、東書 335、三省堂 337、三省堂 338、教出 341、教出 343、大修館 345、大修館 346、大修館 347、明治 353、明治 354、筑摩 356、筑摩 357、第一 359、第一 360、第一 361、第一 362
盛唐	五言律詩	孟浩然	臨洞庭	国総	三省堂 337
盛唐	七言絕句	李白	峨眉山月歌	国総	東書 332
盛唐	七言絕句	李白	黃鶴樓送孟浩然之廣陵	国総	東書 333、東書 335、三省堂 338、第一 359、第一 360
盛唐	七言絕句	李白	春夜洛城聞笛	国総	大修館 345、大修館 346

盛唐	五言絕句	李白	靜夜思	国総	東書 335、三省堂 337、三省堂 338、三省堂 339、教出 341、教出 342、大修館 345、大修館 347、数研 349、数研 350、数研 351、明治 353、明治 354、筑摩 356、筑摩 357、第一 359、第一 360、第一 361、第一 362
盛唐	七言絕句	李白	贈汪倫	国総	東書 332
盛唐	七言絕句	李白	早發白帝城	国総	教出 341、教出 343、桐原 364
盛唐	五言律詩	李白	送友人	国総	筑摩 356、筑摩 357、桐原 364
盛唐	七言絕句	李白	望廬山瀑布	国総	東書 333、東書 335
中唐	五言絕句	韋志物	秋夜寄丘員外	国総	東書 335
中唐	五言絕句	韋志物	秋夜寄丘二十二員外	国総	大修館 347、筑摩 356、筑摩 357
中唐	五言絕句	耿湣	秋日	国総	明治 353、明治 254
中唐	七言絕句	張継	楓橋夜泊	国総	数研 349、数研 350、桐原 364
中唐	七言律詩	白居易	香奩峰下新下山居草堂初成偶題東壁	国総	東書 333、東書 335、三省堂 337、三省堂 338、三省堂 339、教出 341、教出 342、教出 343、大修館 345、大修館 346、第一 361、第一 362
中唐	七言律詩	白居易	八月十五日夜禁中直對月憶元九	国総	数研 349、数研 350、明治 353、明治 354、筑摩 356、筑摩 357、第一 359、第一 360、桐原 364
中唐	五言絕句	柳宗元	江雪	国総	東書 332、東書 333、東書 335、三省堂 337、三省堂 338、教出 341、教出 342、教出 343、大修館 345、大修館 346、大修館 347、数研 351、明治 353、明治 354、筑摩 356、筑摩 357、第一 359、第一 360
晚唐	五言絕句	于武陵	勸酒	国総	東書 333、三省堂 339
晚唐	七言絕句	高駢	山亭夏日	国総	東書 332、明治 353、明治 354、筑摩 356、筑摩 357

晩唐	七言絶句	杜牧	江南春	国総	三省堂 337、三省堂 339、教出 341、教出 342、明治 353、明治 354、第一 359、第一 360
晩唐	七言絶句	杜牧	山行	国総	東書 332、大修館 345、大修館 346、大修館 347、数研 349、数研 350、数研 351、筑摩 356、筑摩 357
江戸	七言絶句	広瀬淡窓	桂林莊雜詠示諸生	国総	明治 353、明治 254
大正	七言絶句	夏日漱石	題自画	国総	明治 353、明治 254

[表4] 令和3年度「古典B」使用教科書の日本漢詩

時代	詩型	作者	題	種別	教科書
平安	七言絶句	菅原道真	九月十日	古B	教出 309
平安	朗詠	菅原道真	三月尽 (若使韶光我意)	古B	東書 332
平安	朗詠	菅原道真	三月尽 (早春不用動舟車)	古B	東書 332
平安	七言律詩	菅原道真	読家書	古B	明治 346
平安	七言絶句	菅原道真	梅花	古B	研数 344
平安	七言律詩	菅原道真	不出門	古B	第一 351、第一 352、第一 353、桐原 355
平安	七言絶句	菅原道真	聞旅雁	古B	明治 347、筑摩 349
平安	朗詠	尊敬	三月尽 (留春不用関城固)	古B	東書 332
室町	五言律詩	絶海中津	題野古島僧房壁	古B	研数 344
江戸	七言律詩	新井白石	即事	古B	筑摩 349

江戸	七言絶句	石川丈山	富士山	古B	明治346、明治347
江戸	七言絶句	菅茶山	冬夜読書	古B	教出309、三省堂334、三省堂345、教出337、教出338、大修館340、第一351、第一352、第一353
江戸	七言絶句	月性	将東壁遊題壁	古B	大修館340、大修館341
江戸	七言絶句	広瀬淡窓	桂林莊雜詠示諸生	古B	教出490、東書329、東書330、東書332、三省堂334、三省堂335、教出337、教出338、大修館340、大修館341
江戸	七言絶句	頼山陽	題不識庵擊機山図	古B	教出337、教出338、大修館340、桐原355
江戸	古詩	頼山陽	泊天草洋	古B	三省堂334、三省堂335
明治	五言律詩	中野道遥	思君	古B	桐原355
明治	五言絶句	夏目漱石	風流人未死	古B	東書329
明治	五言絶句	夏目漱石	無題	古B	明治346、筑摩349
明治	七言絶句	成島柳北	火輪車中之作	古B	桐原355
明治	五言律詩	正岡子規	送夏目漱石之伊予	古B	東書329、三省堂344、三省堂345、教出337、教出338、第一351、第一352、第一353
明治	七言絶句	森鷗外	航西日記	古B	三省堂334、三省堂335
大正	七言絶句	夏目漱石	題自画	古B	教出309、東書330、東書332、三省堂334、三省堂335、教出337、教出338、大修館340、大修館341、大修館342、研数344